

## 謹賀新年

岐阜別院輪番

今年は皆さんにとりましてどのような一年になるのでしょうか？毎年新しい年を迎えるということは、一歳、年をとるということです。私も今年は66歳になりますが、どのような一年となるのか楽しみです。室町時代は人生五十年といわれていました。現代では、百年と言われていました。このように申しますと私たちは、すぐむ「あと何年」という風に考えてしまいます。あと何年生きられるのかと。それを『引き算の人生』といいます。現実の私たちの身はどうかと言えば、『一年歳を重ねました』と口々に言われます。つまり積み重ねているわけですね。これは「足し算の人生」です。私の思いの中では、「引き算の人生」。しかし身の事実は『足し算の人生』です。矛盾していますね。「引き算の人生」というのは、「死」を意識する非常に不安な思いです。「明日には紅顔あって夕べには白骨となる身なり」これは、蓮如上人がご門徒にあてたお手紙の一節です。このお言葉の意味するところは、私たちは明日もある明後日もあると思っていますが、この身の事実は、「今」しかない。そういう命を生きているんですよということを、教えてください。「今」しかない命に気づいたなら、「今」という時間を精一杯生きようとしします。それは、過去を悔やんでいる暇もなく、未来をあれこれと案じている暇もない、そういう生き方に変わっていきます。私のお寺は福井県ですが、ご門徒さんの殆どは農家です。以前は、朝と夕方にはあちこちの家から「りん」の音が聞こえていました。これは、田んぼや畑で作業して、そして、夕方お寺の鐘の音で家に戻り、お風呂に入って汗を流し、夕飯前にお内仏でお参りする。そういう事が生活でした。「今日も一日ありがとうございました」と口にしながら今日一日をいかせていただきました。とう感謝とお礼の思いを「南無阿弥陀仏」と表現しておられました。私達の先達者は、蓮如さんのお言葉を通して、いただいた命、限りある命という事を十分に自覚しておられたのです。命があって当たり前、

生きていることが当たり前とと思っている心にはこの身があることが難しい、つまり、「ありがとう」という言葉はでてこないのではないのでしょうか？改めて、新年を迎えるに当たり、今一度先達者の生きざまに見習い、一日一日を精一杯過ごしていきたいものです。